

宮崎市教育委員会との連携協力

宮崎市教育委員会との令和元(2019)年度連携協力事業については、以下のとおりである。

1 宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう、昨年に引き続き半年間、英語学習アシスタント活動を行う。

- (1) 総 数 令和元年度 参加者なし
- (2) 活動期間 半年間

2 宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3・4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成26(2014)年度から英語学習アシスタント活動を行った。

- (1) 総 数 5名 (3年生 5名)
- (2) 活動日数 1年間

3 大宮中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう平成27(2015)年度から英語学習アシスタント活動を行った。

- (1) 総 数 1名 (4年生 1名)
- (2) 活動期間 半年間

4 大宮中学校における英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3・4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成29(2017)年度から英語学習アシスタント活動を行った。

- (1) 総 数 6名 (3年生 6名)
- (2) 活動日数 1年間

5 第13回ひむかかるた競技大会

令和2年2月15日(土) 宮崎公立大学体育館において開催した。

- (1) 目 的 宮崎の文化、歴史、産業、風土、偉人などを綴った郷土かるたの競技をとおして、若年層を対象に地域についての知識と愛情を育み高揚させることにより、「ふるさと・みやざき」のイメージを再生、創造する。
- (2) 主 催 ひむかかるた協会
- (3) 共 催 宮崎市教育委員会 宮崎公立大学
- (4) 後 援 宮崎県教育委員会
- (5) 競技種目 団体戦・個人戦
- (6) 参加資格 小学生の部 県内在住の小学生
幼児の部(ひむかかるたフェスタ) 市内保育園児・幼稚園児

※ 詳細は 84ページに掲載

6 その他の活動

宮崎西中学校における学校支援ボランティア

① サマースクール支援（夏季休暇中）：

夏休み期間中のサマースクール（学習会）において、教職課程を履修して

る学生が中学生への学習支援を行う。

学校の事情により中止。

② 英語検定二次試験面接指導

英語検定を受験する生徒を対象にした二次試験（面接）の指導に、教職課程を履修している学生が面接官役になって指導を行った。

(1) 11月： 8名参加

(2) 6月： 4名参加

(2) 2月： 4名参加

③ 英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3・4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成30（2018）年度から英語学習アシスタント活動を行った。

(1) 総 数 1名（4年生 1名）

(2) 活動日数 1年間

<宮崎県教育委員会主催事業>

スクールトライアル事業への参加（短期：3日間）

昨年度に引き続き、教員を目指す2年生に対して、教育実習とは別に、教員の業務に対する理解や子どもとのコミュニケーションを図る機会を提供した。

(1) 総 数 14名（2年生 14名）

(2) 受入学校 県内の小学校、中学校、高等学校

(3) 活動日数 3日間

行事名	第 13 回 ひむかかるた競技大会
目的	宮崎の文化、歴史、産業、風土、偉人などを綴った郷土かるたの競技をとおして、若年層を対象に地域についての知識と愛情を育み、高揚させることにより、「ふるさと・みやざき」のイメージを再生、創造する。
実施日時	令和 2 年 2 月 15 日（土） 午前 9 時～午後 4 時
会場	宮崎公立大学 体育館（宮崎市船塚 2 丁目 184 番地）
主催	ひむかかるた協会
共催	宮崎市教育委員会 宮崎公立大学
後援	宮崎県教育委員会
競技種目	個人戦、団体戦
参加資格	小学生の部 県内在住の小学生 幼児の部（ひむかかるたフェスタ） 市内保育園児・幼稚園児
参加人数（チーム）	ひむかかるた競技： 17 小学校より、団体戦 32 チーム、個人戦 27 名、合計 123 名
参加者数	選手 123 名。 来賓、観客も含め約 350 名。
参加者負担	（参加料） 無料
資格等	団体戦各小学校 3 チーム、個人戦 2 名までとする。
競技方法	団体戦、個人戦ともに予選はリーグ戦、決勝はトーナメント戦にて行う。予選リーグの対戦については、事前申し込みに従い前日までに実行委員会が代理抽選にて決定する。
競技規則	別に定める「ひむかかるた大会競技規則」による
審判	競技規則に基づき公認審判員が努める。
表彰	1～4 位を上位入賞者とし、表彰する。また参加選手全員に参加賞を授与する。
<ul style="list-style-type: none"> 競技大会には県内 17 小学校から、団体戦（3 人 1 チーム制。各小学校 3 チームまで参加）32 チーム 96 名、個人戦（各小学校 2 人まで参加）27 名、計 123 選手が参加した。これに先立ち、昨年度昼休みを利用して行われた幼児向け企画「ひむかかるたフェスタ」を、大幅に規模拡大し、「第 2 回ひむかかるたフェスタ」として独立した大会として行っており（令和元年 11 月 30 日：後述）、2 大会を合計すると 198 名の参加となった。これまでにない数の子供たちが、ひむかかるた大会に参加したことになる。昨年度より引き続き宮崎公立大学の学長裁量枠予算もいただきながら、公立大、市教育委員会の共催の下で、大会は順調に発展していると考える。 	

【競技のもよう】

- ・午前9時30分より開会式が行われた。来賓として二見俊一宮崎公立大理事長、西田幸一郎宮崎市教育長が臨席した。
- ・10時より試合開始。昼休憩(12時～13時)をはさみ、午前中は予選リーグ3試合、午後は決勝トーナメント4試合が、それぞれ団体戦、個人戦同時並行という形で行われた。
- ・団体戦は宮崎南小学校「I Love ちきんなんばん's」、個人戦は、宮崎南小学校H・M選手が優勝した。(個人情報保護の観点から選手名は記さない)
- ・第13回を迎えた今年度であったが、参加校数は昨年度並みの17校となった。選手数は本年度より各校選手枠を厳守して募集を行ったため、123名とやや減少した。試合ではここ数年の大会同様、ハイレベルな技の攻防が相次いだ。特に午後の決勝トーナメントでは、例年以上に白熱した試合が展開された。特に今回は各部門とも宮崎南小学校が上位を独占する結果となった。宮崎南小学校では、昨年度の大会上位を独占した大塚小同様、ひむかかるたを用いた教育、課外活動等、独自の活動をここ数年行っていただいている。今年度、早くもその成果が反映されたものと考えられる。また、昨年度団体個人ともに優勝した大塚小をはじめ、他の小学校においても現状ではこれまで以上にかるた活動に深く取り組んでおり、今回の大会では総じて選手たちが日ごろからかるたに真剣に取り組み、一層の技量アップを果たしていることが確認できたと考える。

●競技風景



【今大会の特徴】

①企画・運営・演出面

- ・ 昨年度実験的に行った団体戦参加のチーム名登録を、本年度も引き続き義務化した。これは、チームとしての一体感を出すとともに、子供たち自身とふるさと宮崎の関係について考えてもらうことを狙ったものである。大会当日は、昨年度にも増して子供たちの宮崎愛を感じさせる、ユニークで個性的な名前のチームで満ち溢れることとなった。本年度のベストネーミング賞として、宮崎小学校「ひょっこりこ、ひょっこり宮小っこ」、宮崎港小学校「懸命にカルタをみがく港っ子」、田野小学校「たくあんバリボリ田野っ子」の3チームが受賞した。
- ・ 運営面では、まずこれまで好評だったBGMによる演出は今年も行われた。特に昨年シンガーソングライターの大野勇太氏に作詞・作曲を依頼した「ひむかかるたの歌」をイメージソングとして随所に流すことで、大会全体のまとまったイメージ作りをすることができた。
- ・ また、大会運営に当たり、昨年同様ひむかかるた事業協力校の先生方、公立大アルバイト生に加え、小学生、中学生たちに参加いただき、大会を大いに盛り上げていただいた。近年の大会で見えてきた「子供たち及び先生たちのひむかかるた」という大会の性格も、かなり明確になってきたと考える。審判、あるいは運営スタッフとして大会に参加することは、選手として勝負を争うこととはまた違った喜びを与える。大会を追うごとに運営に子供たちがかかわる傾向は、本来のかかるたの魅力、事業の狙いから考えれば、まさに理想的な展開であるといえる。今後ますますのかかるた普及への効果を期待して充実したものとしていきたい。
- ・ 事前告知、事後の報告については、大会の事前広報活動（宣伝パンフレット、新聞形式のかかるた通信（計2回）等の宣伝メディアの発行、配布）や当日の運営の主要業務はひむかかるた協会事務局を中心とした実行委員会が行った。これまで同様大会の様子をまとめた「ひむかかるた通信」第14号を年度内に発行し、市内各校をはじめとした関係各方面への配布を行うことができた。卒業を控えた6年生児童にも確実に届けることができた。

②参加学校について

- ・ 小学生の部における参加校数については、昨年度の19校から微減し17校となった。協力校事業については平成30年度と同じ市内17校で進めたが、インフルエンザ等の理由により今回の参加がかなわなかつた学校もあり、目標とした20校には届かなかつた。

③「第2回ひむかかるたフェスタ」（幼児向けひむかかるた大会）について

- ・ 前述のように、昨年度昼休みの時間を利用して開催した幼児向け企画「ひむかかるたフェスタ」を、好評につき大幅に規模拡大し「第2回ひむかかるたフェスタ」として令和元年11月30日に宮崎公立大学体育館で開催した。これは幼児向けの優しいルールで3試合行ったもので、次世代の「宮崎大好きっ子」育成に向け、幼児期より遊びとしてのひむかかるたになじむ子供たちを増やすことを意図している。昨年同様宮崎保育会の協力のもと、宮崎市、宮崎公立大の後援で行われた。当日は6保育園、4幼稚園から75人もの園児が参加し、「まんまるリーグ」「まっすぐリーグ」の2形式に分かれ、ゲームとしてのかかるたあそびを楽しんだ。

【今後に向けて】

- ・「ひむかかるた大会」をはじめとする一連のひむかかるた普及事業については、本年度も「ひむかかるた協会」を中心に、市教育委員会、宮崎公立大学の強力な支援を仰ぎながら、順調な発展をとげることができたと考える。宮崎公立大学から、地域への地域貢献としてスタートした事業が、10年を経て地域に根付き、地域と公立大が連携して行う活動へと育ちつつあることを、あらためて実感する次第である。
- ・とりわけ本年度は、従来の小学校対象の普及活動が、現場の先生方のご尽力により、より充実した展開となったことに加え、昨年度より新たに取り組んできた保育園・幼稚園における普及事業がいよいよ本格的に進み始めたことは大きな収穫であった。かるたの導入を幼児期に設定し、小学校、中学校へとつなげていく郷土教育は、故郷に対する単純な愛着心を作るだけでなく、広く協同性や寛容性をも育むという点において、ここ数年の展開で見え始めた多元的な郷土教育の思想と軌を一にするものである。
- ・今後もこの方向性を模索しながら、かるたの普及に努めていきたいと考える。これまでの活動において、宮崎公立大、市教育委員会及び各小学校との間に作ってきた協力関係をベースに、新たに宮崎保育会の支援もいただきつつ、幼少期から活動として発展させていきたい。
- ・一方かるた事業の今後を考えるうえで今後大きな懸念材料となるのは、やはり、現在世界的な規模で猛威を振るう新型コロナウィルスであろう。所謂コロナ禍の影響から、次年度の活動内容について再検討を余儀なくされる部分も多いが、これまでの取り組みを状況に合わせながらうまくアレンジすることで、何とか乗り切っていきたいと考える。
- ・ひむかかるた関連事業は、令和3年度には14年目を迎える。これまで活動を発展的に継続できたことに関して、関係各位には厚く御礼を述べるとともに、これからも変わらぬご尽力を賜るよう、切にお願い申し上げる次第である。

文責・梅津 順一郎（本学人文学部准教授、ひむかかるた協会会长）

宮崎銀行・宮崎太陽銀行との連携協力

◎ 「インターンシップ論」の講義への講師派遣（宮崎銀行）

本学の前期開講科目である「インターンシップ論」に講師として行員を派遣し、企業概要やインターンシップのプログラムについて説明していただいた。

(1) 実施日 令和元年 6 月 20 日（木）

(2) 参加者数 約 70 名

◎ 令和元(2019)年度業界研究セミナー講師派遣（宮崎銀行）

本学が実施した業界研究セミナーに、講師として行員を派遣していただいた。

(1) 実施日 令和元年 11 月 27 日（火）

(2) 参加者数 約 23 名

◎ 「キャリア設計Ⅱ」の講義での企業訪問受け入れ（宮崎銀行・宮崎太陽銀行）

本学の後期開講科目である「キャリア設計Ⅱ」で行う学生の企業訪問の受け入れを行っていただいた。

（宮崎市地元とつながる人材育成支援事業/「宮崎×キャリア」の探求 2019）

(1) 実施日 令和元年 12 月 3 日（火）

(2) 訪問者数 宮崎銀行 10 名、宮崎太陽銀行 7 名

◎ 令和元(2019)年度インターンシップへの参加（宮崎銀行・宮崎太陽銀行）

* 夏期インターンシップ（公募） 宮崎銀行 6 名、宮崎太陽銀行 2 名

宮崎商工会議所との連携協力

1 日商簿記検定

日商簿記検定の試験会場として、学内施設の貸出を行った。

・第152回検定 実施日：令和元年 6月9日